

学年	授業時数	教科	科目	教科書名	副教材名
高3 (総合進学)	4	公民科	公民特講	『政治・経済』 (東京書籍)	『ウィニングコンパス 公共・政 経の整理と演習 2024』 (東京法令出版) 『政治・経済資料 2024』 (東京法令出版)

1. 授業のねらい

- (1) 既習分野の復習。
- (2) 問題演習などを通じて主に基礎学力到達度テスト・私大入試・大学入試共通テストに対応できる実力を養う。

2. 授業の進め方

副教材やプリントなどを使用して授業を進める。また、ICT を活用した授業を進める。なお、ICT 機器は担当者の指示があるとき以外は、机の中にしまっておくこと。

3. 学習上の留意点

高2までに学習した内容の復習を中心に問題演習を行う。入試問題の多くは基本事項であるため、まずは基本事項をしっかりと習得することに主眼を置いた展開とする。問題演習で正解に結びつくようにするには、単なる暗記ではなく、なぜそうなるのか、時代背景、キーワードの用語を中心に、理解して覚えることが大切である。しかしながら理解して覚えただけでは十分ではなく、覚えたものが身に付いていなければならない。その用語を知っている、または覚えたはずなのに、問われ方が変わると解けない場合は、身に付いていないということになる。身に付いているか否かの一つの目安になるのは、説明できるか否かである。上辺だけの理解では、説明することはできない。すなわち、真の実力を付け、得点力をアップさせるには、自ら学ぶ姿勢、意欲的に取り組む姿勢、アクティブラーニングの姿勢が何よりも重要となる。

4. 教科書・副教材

- (1) 教科書『政治・経済』(東京書籍) 『詳述 公共』(実教出版)
- (2) 副教材『ウィニングコンパス 公共・政経の整理と演習 2024』(東京法令出版)
『政治・経済資料 2024』(東京法令出版)

5. 評価方法

- (1) 定期試験・定期考査3回(100点×3回) 計300点
- (2) 平常点…1学期20点+2学期10点 計30点
- (3) 定期考査、平常点等を基に「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について評価する。
- (4) ノート(プリント)提出・課題提出などについてはその都度発表する。

6. 定期考査

授業で扱った事項、試験前に指定した範囲からの出題の他、応用・発展・時事問題を出題することもある。

7. 指導計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標		
1 学 期	4	5 経済の原理とその発展 経済社会と資本主義経済の成立 資本主義経済とその変容 社会主義経済とその現状	課題など 中間考査 課題など 期末考査	主に経済分野の問題演習		
		6 現在経済のしくみ 経済主体と経済の循環 現代の企業 市場経済の機能と限界 市場の失敗 国民所得 景気と物価 金融とそのしくみ 日本銀行の役割と金融政策 財政とその役割 租税と日本の財政の課題				
		5			7 日本経済の発展と課題 戦後復興期 高度経済成長期 高度経済から安定成長 バブル経済と平成不況 中小企業・農業・食料・消費者問題	
		8 労働と社会保障 公害と環境保全 労使関係と労働市場 社会保障と社会福祉				
	6	1 民主政治の基本原則 民主政治の基本原則と発展 世界の政治体制			課題など	主に政治分野の問題演習
		2 日本国憲法の基本原則 日本国憲法の制定と基本原則 基本的人権の保障と新しい人権 平和主義				
		3 日本の政治機構 立法 行政 司法 地方自治				
	7	9 現代の国際政治 国際関係の成立と国際法 国際社会の組織化 国際連合の組織と課題 国際政治の動向と課題Ⅰ 国際政治の動向と課題Ⅱ			期末考査	主に国際政治分野の問題演習
		8 夏季休業				
	2 学 期	9			4 現代政治の特質と課題 選挙と政治意識/政党政治と政治参加/世論とマスメディア	基礎学力到達度テスト
10		10 国民経済と国際経済 貿易と国際収支 経済対立と国際協調 地域的経済統合 南北問題 国際社会における日本の役割				
11		私大入試対策 大学入試共通テスト対策	課題など	問題演習を通じた実践力の養成		
12		冬季休業	期末考査			

※現代の諸課題（公共）、テーマ別倫理（公共）も必要に応じて取り扱う。

※理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。